

モデル事業の目的

- 町民の帰還に向け安心して生活できる環境づくり
- 事業成果について原子力災害を受けた里山の再生に寄与

モデル地区概要

- モデル地区：立野地区
- 区域面積：約258haうち森林約204ha（民有林（町有林約5ha、私有林約199ha））

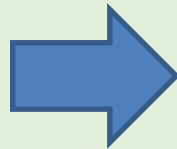
事業の内容

除染（H30～H31年度）

- 三方を森林で囲まれた住居等周辺の森林5箇所で、住居等から20m以遠40m以内の範囲について、計2.4haの堆積有機物除去を行いました。



除染実施前



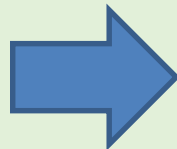
除染実施後

森林整備（H29～R1年度）

- スギ・ヒノキ人工林の間伐（間伐率21%、10.27ha）を実施しました。適切な樹木の密度となるよう、健全な生育が見込めない樹木を中心に伐採しました。伐採した樹木は一定の長さに切りそろえ、森林内に分散して配置しました。
- スギ・ヒノキ人工林内において、チップの散布（チップ厚10cm、範囲10m×50m）を実施しました。



実施前



実施後

線量測定（H29～R1年度）

- H29からR1にかけてモデル地区内の空間線量率を毎年測定しました。（メッシュ測定：44（メッシュ数）、遊歩道等の歩行サーベイ：約2,854m 等）
- 空間線量率の測定にあわせて個人被ばく線量を測定しました。

＜モデル地区の概況図＞



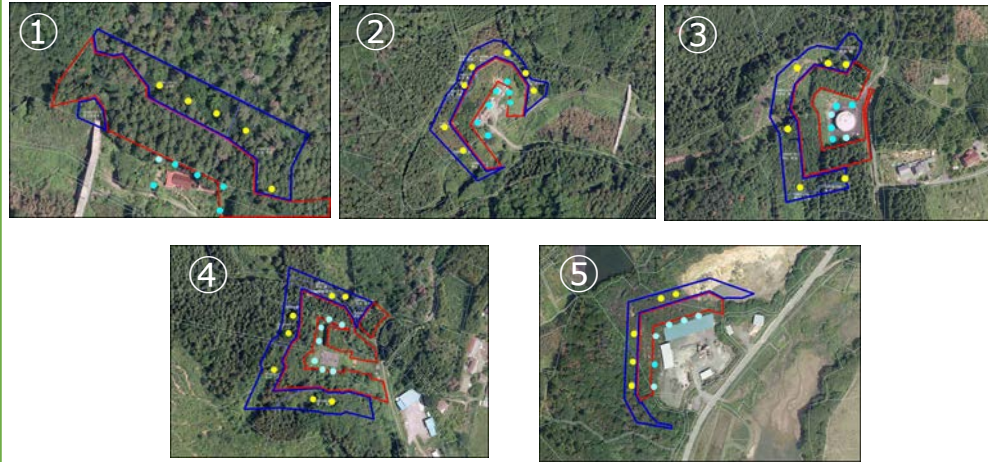
浪江町モデル事業の結果

除染の結果

○空間線量率（高さ1 m）の平均値（単位：μSv/h）

	● 林縁（影響部）			● 除染箇所		
	除染前	除染後	低減率 (物理学的減衰率)	除染前	除染後	低減率 (物理学的減衰率)
	H30年2月	H30年3月		H30年2月	H30年3月	
①～⑤ 平均	1.17	1.13 ※	3.4% (0.8～2.5%)	2.39	2.28※	4.6% (0.9～2.5%)

※H30年4月、5月に測定した箇所を含む



□：今回の除染範囲
●：林縁（影響部）測定点
□：過去の除染範囲
●：除染箇所測定点

線量測定の結果

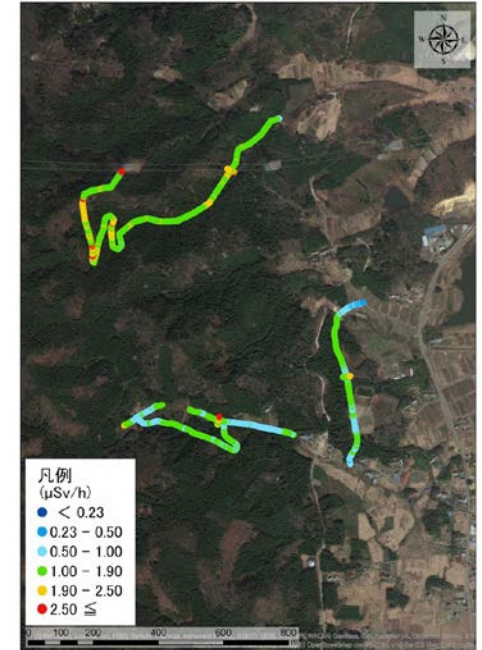
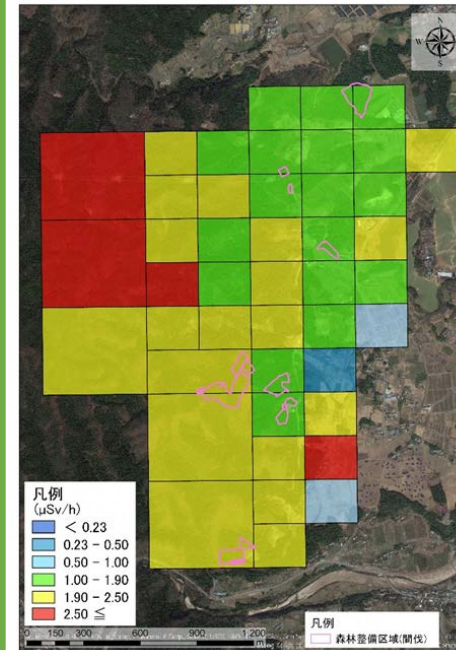
※空間線量率は実測値を基にR1年8月1日を基準日として算出

【メッシュ測定】

地区平均(地上1m)は1.90 μSv/h、
最大値は2.93 μSv/h、
最小値は0.32 μSv/h でした。

【歩行サーベイ】

平均は1.40 μSv/h、最大値は4.68 μSv/h、最小値は0.41 μSv/h でした。



【個人被ばく線量】

町役場へのヒアリングを行い、想定される利用形態（滞在時間188分）を設定し、個人被ばく線量を測定しました。その結果、1回の利用に伴う個人被ばく線量は、0.0013mSv（1.3μSv）でした

※胸部X線検査1回あたりの被ばく線量は0.06mSv（60μSv）

森林整備の結果

- 間伐等の森林整備により、下層植生の成長が促進され、表土の流出の抑制が見込まれる。また、根による土壌の保持力が向上し、水源涵養機能、山地災害防止機能等の公益的機能の発揮が期待されます。
- 今回の森林整備によって延べ484人日の雇用が生まれ、林業活動の継続が図られました（平成29年度人132人、平成30年度170人、令和元年度182人）。

モデル事業の効果

- 森林整備により放射性物質を含む表土の流出抑制効果が見込まれるものの、除染による放射線量の低減が限定的であったため、町民の帰還に向け安心して生活できる環境づくりへの寄与は限定的であったと考えられます。
- 除染と森林整備を一体的に実施したものの、モデル地区のうち遊歩道等の人が立ち入る場所が必ずしも明確ではなかったことから、全体として里山の再生に寄与したかどうか判断が困難です。